

性, 学年, および年齢によるコロナ禍における 大学生の生活様式変化の違い

笹原 妃佐子¹⁾, 田地 豪¹⁾, 西村 瑠美²⁾
前原 朝子³⁾, 二川 浩樹¹⁾

目的: 長期に渡るコロナ禍の影響を受けた学生に対して, 変化した生活習慣をとりもどす方を検討すべく, 性, 年齢, 学年の違いによるコロナ禍への影響を分析した。

方法: 2020年度広島大学歯学部歯学科1~6年生320名の学生を対象に, 2020年11月から2021年2月の間にコロナ禍における生活変化に関する質問紙調査を実施しており, そのデータを利用した。

結果: その結果, 女子学生は, 男子学生に比べ, コロナ禍において, 人的交流や外出を制限していた。また, 学年による生活様式の変化が見られたが, 内容的に問題は認められなかった。しかし, 年齢の高い学生に, 金銭的困窮や体重増加が見られた。

結論: 特に女子学生に対して, 人的交流の場と外出の機会を設けることや精神的援助が必要であると考えられた。年齢の高い学生は, 孤立しやすく, 保護者からの金銭的援助が受けにくいと考えられるため, 援助の必要な学生と援助を結びつけるチューター制度の充実が望まれる。

キーワード: COVID-19, 大学生, 生活変化, 性, 年齢

Differences in lifestyle changes among university students during the
COVID-19 pandemic by sex, grade, and age

Hisako Sasahara¹⁾, Tsuyoshi Taji¹⁾, Rumi Nishimura²⁾,
Tomoko Maehara³⁾, Hiroki Nikawa¹⁾

OBJECTIVE: The purpose of this study was to examine the influence of sex, grade, and age on the lifestyle changes of university students during the COVID-19 pandemic and to consider measures to restore their altered lifestyle habits.

METHOD: A questionnaire survey on lifestyle changes caused by the COVID-19 epidemic was conducted among 320 first- to sixth-year students in the Department of Dentistry, Faculty of Dentistry, Hiroshima University in fiscal year 2020, between November 2020 and February 2021.

RESULTS: Female students were more restricted in their personal interactions and outings than male students. Although there were some changes in lifestyle depending on grade level over the school year, these changes were not problematic. Financial deprivation and weight gain were observed among older students.

CONCLUSION: Opportunities for personal interaction and outings, and psychiatric help are especially necessary for female students. As older students are more likely to be isolated and less likely to receive financial assistance from their parents, it might be desirable to improve the tutoring system to connect students in need with appropriate assistance.

Key words: COVID-19, University students, Lifestyle changes, Gender, Sex

1) 大学院医系科学研究科 口腔生物学
2) 大学院医系科学研究科 口腔保健疫学
3) 大学院医系科学研究科 公衆口腔保健学

1) Department of Oral Biology & Engineering, Graduate School Biomedical and Health Sciences
2) Department of Oral Epidemiology, Graduate School of Biomedical and Health Sciences
3) Department of Public Oral Health, Graduate School of Biomedical and Health Sciences

I. はじめに

2020年1月15日、国内で初めてCOVID-19による感染が確認され、世界各地に感染拡大した。2020年1月30日、WHOはこのパンデミックを「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」とし¹⁾、2023年5月5日をもって、「緊急事態」の終了を宣言した。わが国においても、2023年5月8日より、COVID-19感染症は感染症法の2類相当から5類感染症とされ、行楽地や外食産業は、以前と同様の賑わいを示すこととなった。

しかし、いまだ感染不安を抱えている人、コロナ禍での生活様式に慣れてしまった人もあり、コロナ禍による影響が消えるには暫く時間がかかると思われる。大学生では中退や退学の増加はないものの²⁾、「何もしたくない」と無気力に陥ったり、対人コミュニケーションが身についていないと感じたりするものも多い³⁾。大学当局もこのような学生への対応を考えるべきであるが、網羅的な対応をするのではなく、性、年齢、学年等の違いを考慮した個別事例への対応が必要であろう。

さて、著者らは、これまで、コロナ禍による大学生の学生生活の変化^{4,5)}を公表してきた。本調査では、コロナ禍の影響を大きく受けた集団に対して、変化した生活習慣をとりもどす方策を検討すべく、性、年齢、学年の違いによるコロナ禍への影響を分析した。

II. 方法

1. 調査対象者・期間

2020年度広島大学歯学部歯学科1～6年生のうち、留学生や休学中の学生を除いた全320人（1年生52名、2年生54名、3年生53名、4年生58名、5年生52名、6年生51名）を対象に2020年11月から2021年2月の間に質問紙調査を行った。

2. データ収集方法

ほとんどの授業が対面ではなくオンラインで行われていたため、対面での試験の際に試験問題と質問紙及び調査内容の説明用紙を共に配布し、試験終了後に回収した。未成年の学生は、試験が実

施される1～2週間前に質問紙と調査内容の説明用紙を配布し、保護者の了解を得るよう学生に依頼した。保護者の了解が得られた学生から、対面での試験の際に質問紙を回収した。調査への同意は、質問紙の提出をもって得たものとした。

質問紙は無記名で、①対象者の属性、②広島においてコロナ感染の広がりがほとんどみられなかった2020年3月以前と調査時点との生活の変化を問う質問内容で構成された。②は、全40項目で構成され、「大変増加」から「大変減少」までの7段階で回答された。質問項目と回答の選択肢の詳細は、表2に示す通りである。調査時点での1年生の中には、2020年3月において、2020年4月7日に出された第1回緊急事態宣言の対象となった都道府県に在住していた者が25%存在しており、これらの学生にとってはコロナ感染の広がりの時期が調査票の記載とはズレがある可能性がある。ただし、調査票は“新型コロナウイルス流行前後の変化”を問う質問紙調査であることを明記したものであった。

3. 倫理的配慮

本研究は広島大学人を対象とする医学系研究（疫学）倫理審査委員会の承認を得て行った（承認番号：第E-2302号）。質問項目と回答の選択肢の詳細は、表2に示す通りである。調査対象に対して回答は自由意志によるものであり回答しないことによる不利益はないこと、調査は無記名で行い個人が特定されないことを文書で説明した。

4. 分析方法

Microsoft Excel 2013（日本マイクロソフト社製）と、SPSS version 22（日本IBM社製）を用い、データの集計・分析を行った。男女別に、それぞれの質問項目への回答の増加もしくは減少方向への偏りを、中央値を「無変化」とし、Wilcoxonの1標本検定をした。次に、Mann-WhitneyのU検定を用いて、性差を分析した。最後に、質問紙への7段階の回答を順位化したものを目的変数、性、学年、年齢を説明変数として、重回帰分析を用いた要因分析を行った。学年と年

性、学年、および年齢によるコロナ禍における大学生の生活様式変化の違い

年齢の間にはかなりの相関性が予想され、同時に説明変数とすることは好ましくない。しかし、学年が上がるだけでなく、大学浪人や留年の影響を検討する目的で両者を同時に説明変数とした。なお、危険率1%をもって、有意とした。

Ⅲ. 結果

1. 分析対象者

全学年で272人から質問紙が回収され、性別もしくは年齢の記載がなかった5名を除いた分析対象者は267人であり、その詳細は表1に示すとおりである。

2. 男女別、コロナ禍における生活様式変化

表2に全40質問項目に対する回答の分布を、男女別に示した。例えば、「a1) 家族との対面による会話」が2020年3月以前(=コロナ禍以前)と調査時点(=コロナ禍の最中)を比較して、<大変減少>と回答した学生は、男性では12.5%、女性では13.7%であり、<大変増加>と回答したものは男性では0.7%、女性では2.3%であった。結果として男女とも、有意に家族との対面による会話が減少していた(両者とも $p < 0.001$)。全40質

問項目のうち、27項目において、男女とも<増加>または<減少>の同じ方向に有意な変化を示しており、異なる方向に有意な変化を示した項目はなかった。

3. コロナ禍における生活様式変化の男女比較

Mann-WhitneyのU検定を用いた分析において、生活様式変化に性差が見られたのは、図1に示す9項目であった。趣味の「h3: ゲームをする時間」では、男性の方が<増加>の程度が著しかった($p < 0.01$)。それ以外の8項目では、女性の方が、<減少>もしくは<増加>の程度が大きかった。

4. コロナ禍における生活様式変化の重回帰分析を用いた要因分析

表3には、質問紙への回答を目的変数、性、学年および年齢を説明変数として、要因分析を行った結果のうち、危険率1%で有意な要因があった項目のみを示した。例えば、「a4: 支出(出費)」は学年が上がると増加方向へシフトした($p < 0.001$)、また、「d5: 生活するうえでお金に困ること」は学年が上がると減少方向へ、年齢が上

表1 分析対象

年齢	男子学生							女子学生						
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
19	3	4					7	4	3					7
20	5	2	2				9	4	11					15
21	2	9	7				18	1	6	7				14
22	2	5	8	6	3		24	1	8	7	7	1		24
23		1	3	6	5	1	16	1	1	6	5	2	5	20
24			4	8	6	5	23			2	2	12	6	22
25		1	1	2	6	10	20			1		8	11	20
26			1			3	4		1	1	2	1	2	7
27				1	2	2	5							
28				3	1		4						2	2
29		1	1		1	1	4							
30														
31						1	1							
32					1		1							
計	12	23	27	26	25	23	136	11	30	24	16	24	26	131

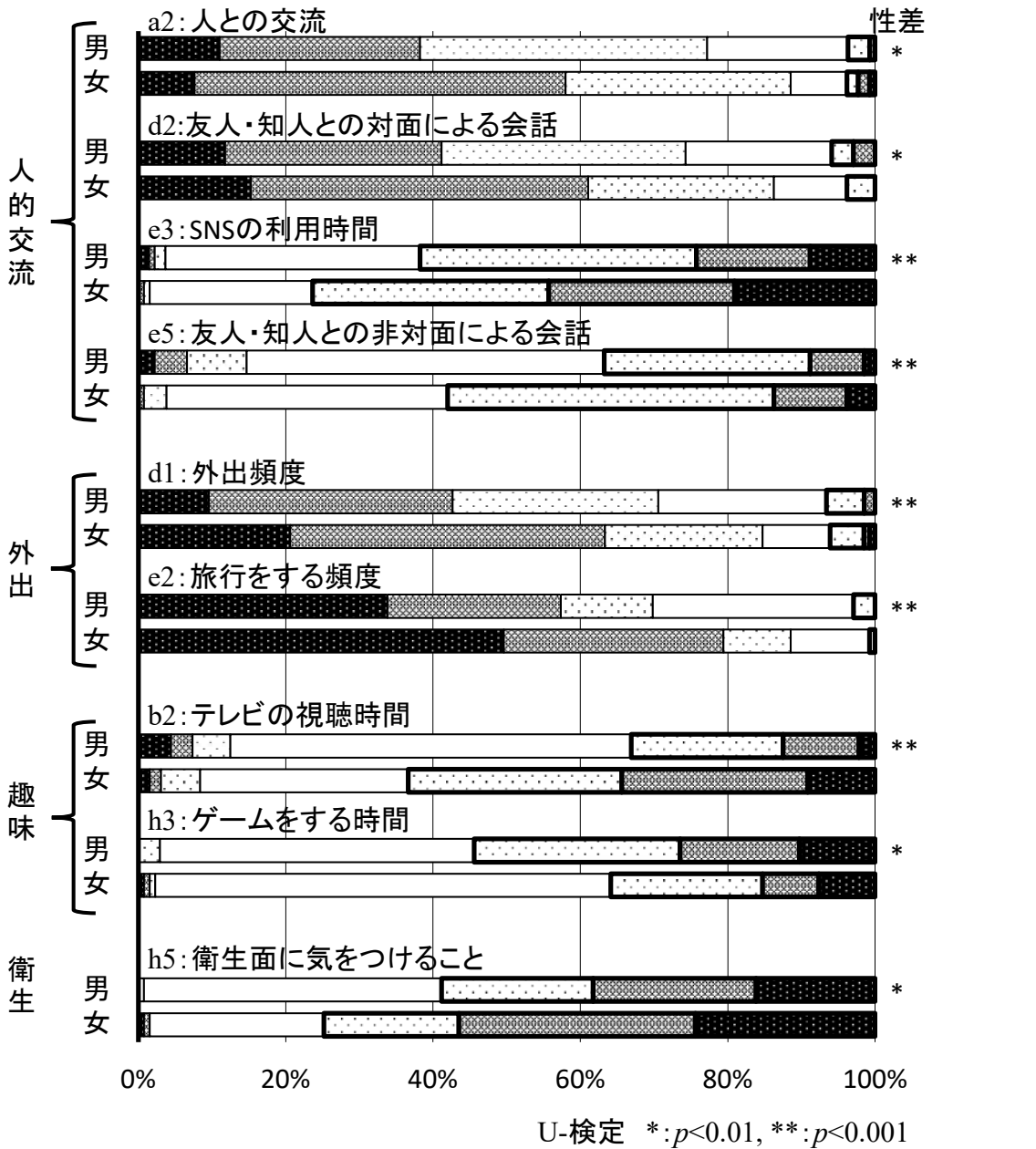
太字: 調査時点にすでに誕生日が来ていた場合における、その学年になるための最小年齢

表2 男女別, コロナ禍における生活様式変化の分布 (%)

		大変 かなり							1標準 Wilexon 符号順位検定		大変 かなり							1標準 Wilexon 符号順位検定	
		減少	減少	減少	無 変化	増加	増加	増加			減少	減少	減少	無 変化	増加	増加	増加		
a 1) 家族との対面による会話	男	12.5	5.9	11.8	56.6	8.1	4.4	0.7	↓↓	e 1) 授業時間以外の勉強時間	男	3.7	5.9	7.4	37.5	24.3	12.5	8.8	↑↑
	女	13.7	11.5	18.3	35.9	10.7	7.6	2.3	↓↓		女	1.5	3.8	3.1	35.1	26.7	18.3	11.5	↑↑
2) 人との交流	男	11.0	27.2	39.0	19.1	2.9	0.7		↓↓	2) 旅行をする頻度	男	33.8	23.5	12.5	27.2	2.9			↓↓
	女	7.6	50.4	30.5	7.6	1.5	1.5	0.8	↓↓		女	49.6	29.8	9.2	10.7	0.8			↓↓
3) 1食の量	男	1.4	2.9	18.0	54.0	15.1	4.3	2.2		3) SNSの利用時間	男	1.4	0.7	1.4	33.8	36.7	15.1	8.8	↑↑
	女		4.6	26.0	55.0	11.5	0.8	2.3			女		0.8	0.8	22.1	32.1	25.2	19.1	↑↑
4) 支出(出費)	男	2.2	11.0	34.6	25.0	19.1	5.9	2.2		4) 公共交通機関の利用	男	9.6	21.3	18.4	48.5	1.5		0.7	↓↓
	女	1.5	9.9	38.9	26.0	18.3	2.3	3.1	↓		女	17.6	23.7	19.8	35.9	3.1			↓↓
5) 体重	男		2.2	9.6	58.1	24.3	5.1	0.7	↑	5) 友人・知人との非対面による会話	男	2.2	4.4	8.1	48.5	27.9	7.4	1.5	↑
	女		2.3	28.2	42.0	24.4	1.5	1.5			女		0.8	3.1	38.2	44.3	9.9	3.8	↑↑
b 1) 自分の好きなことに使う時間	男	1.5		2.9	22.1	32.4	27.2	14.0	↑↑	f 1) 出前やテイクアウトを利用する頻度	男	1.5	1.5	0.7	50.7	26.5	14.0	5.1	↑↑
	女	0.8		5.3	12.2	35.1	32.1	14.5	↑↑		女				42.7	31.3	19.1	6.9	↑↑
2) テレビの視聴時間	男	4.4	2.9	5.1	54.4	20.6	10.3	2.2		2) 仕送り	男	0.7	2.2	3.7	84.6	6.6	1.5	0.7	
	女	1.5	1.5	5.3	28.2	29.0	25.2	9.2	↑↑		女			1.5	89.3	6.1	1.5	1.5	↑
3) 不規則な生活をしていると思うこと	男	1.4	1.4	2.9	30.2	27.3	17.3	17.6	↑↑	3) 貯金	男	3.6	5.8	10.8	51.1	20.1	6.5	0.0	
	女	1.5	1.5	2.3	23.7	26.7	25.2	19.1	↑↑		女		3.1	13.0	49.6	28.2	5.3	0.8	↓
4) 家族との非対面による会話	男			3.7	60.3	22.8	10.3	2.9	↑↑	4) 睡眠時間	男	0.7	2.2	7.4	46.3	25.7	12.5	5.1	↑↑
	女	0.8	0.8	3.8	59.5	19.8	6.1	9.2	↑↑		女	0.8	1.5	4.6	32.1	42.0	15.3	3.8	↑↑
5) 自炊する頻度	男	0.7		2.9	39.7	29.4	16.9	10.3	↑↑	5) Youtubeや動画配信サービスなどを利用する時間	男	0.7	0.7	0.7	11.8	32.4	27.2	26.5	↓↓
	女		0.8	0.8	37.4	32.8	16.0	12.2	↑↑		女				9.2	32.8	38.9	19.1	↓↓
c 1) 自宅で飲酒する頻度	男	2.9	0.7	5.1	60.3	19.1	9.6	2.2	↑	g 1) 読書する時間	男			3.7	71.3	20.6	2.2	2.2	↑↑
	女	3.1	1.5	4.6	65.6	18.3	6.1	0.8			女	0.8	1.5	1.5	65.6	26.0	3.8	0.8	↑↑
2) 1日に吸うたばこの量	男	2.9	0.7		86.8	5.1	2.9	1.5		2) 健康について意識すること	男	0.7		2.9	46.3	36.8	10.3	2.9	↑↑
	女	1.5			98.5						女		1.5		38.2	42.7	10.7	6.9	↑↑
3) 運動時間	男	11.5	23.7	18.7	23.7	10.8	6.5	2.9	↓↓	3) 電話やメールなどオンラインでのやり取り	男	0.7	0.7	42.4	30.9	15.1	8.1	↑↑	
	女	14.5	24.4	19.1	23.7	16.0	2.3		↓↓		女	0.8		26.7	42.7	18.3	11.5	↑↑	
4) ネット上での買い物の消費金額	男	0.7		3.7	48.5	28.7	12.5	5.9	↑↑	4) 1日の食事回数	男	1.5	0.7	8.1	78.7	8.8	2.2		
	女			3.1	31.3	43.5	14.5	7.6	↑↑		女	1.5	9.9	71.8	14.5	1.5	0.8		
5) ニュース番組を見る時間	男	1.5	1.5	2.9	56.6	30.9	4.4	2.2	↑↑	5) バイトをする時間	男	12.5	11.0	10.3	44.1	11.0	7.4	3.7	
	女	0.8	0.8	2.3	47.3	38.2	6.9	3.8	↑↑		女	10.7	6.9	14.5	35.9	16.0	10.7	5.3	
d 1) 外出頻度	男	9.6	33.1	27.9	22.8	5.1	1.5		↓↓	h 1) 衣料品を買うこと	男	2.2	6.6	12.5	60.3	11.0	4.4	2.9	
	女	20.6	42.7	21.4	9.2	4.6	0.8	0.8	↓↓		女	3.1	12.2	22.1	35.9	16.8	9.2	0.8	
2) 友人・知人との対面による会話	男	11.8	29.4	33.1	19.9	2.9	2.9		↓↓	2) 在宅時間	男	0.7	0.7	1.5	12.5	20.6	30.1	33.8	↑↑
	女	15.3	45.8	25.2	9.9	3.8			↓↓		女			6.1	19.8	38.9	35.1	↑↑	
3) 外食の頻度	男	17.3	28.8	22.3	20.9	7.2	0.7	0.7	↓↓	3) ゲームをする時間	男			2.9	41.7	27.3	15.8	10.3	↑↑
	女	20.6	42.0	19.1	13.7	4.6			↓↓		女	0.8	0.8	0.8	61.8	20.6	7.6	7.6	↑↑
4) 間食	男	1.5	2.9	5.9	58.8	22.1	8.1	0.7	↑	4) 眠れないこと	男	2.9	1.5	2.2	72.8	14.7	4.4	1.5	
	女	1.5	1.5	6.9	46.6	35.9	6.9	0.8	↑↑		女	0.8	0.8	3.1	71.8	15.3	6.1	2.3	↑↑
5) 生活するうえでお金に困ること	男	0.7	5.1	8.8	61.8	14.0	5.9	3.7		5) 衛生面に気をつけること	男			0.7	40.4	20.6	22.1	16.2	↑↑
	女	1.5	3.8	9.2	65.6	11.5	4.6	3.8			女	0.8	0.8		23.7	18.3	32.1	24.4	↑↑

空欄：0.0%

↑：p<0.01で増加, ↑↑：p<0.001で増加, ↓：p<0.01で減少, ↓↓：p<0.001で減少



大変減少
 かなり減少
 多少減少
 無変化
 多少増加
 かなり増加
 大変増加

図1 コロナ禍における生活様式変化の男女比較

がると減少方向にシフトしていた（両者とも $p < 0.01$ ）。性差については、女性において「e1：授業時間以外の勉強時間」が男性より増加した以外は、Mann-Whitney の U 検定を用いた分析と

同様の結果が得られた。また、VIF は学年1.951、年齢1.978と両者とも 2 未満であった。

表3 コロナ禍における生活様式変化の要因分析

		B	標準誤差	β	t	p
a2 人との交流	性	-24.058	9.115	-.162	-2.639	.009
	学年	.968	3.907	.021	.248	.805
	年齢	1.263	2.728	.040	.463	.644
a4 支出（出費）	性	-2.416	9.192	-.016	-.263	.793
	学年	-12.998	3.940	-.277	-3.299	.001
	年齢	3.445	2.751	.106	1.252	.212
a5 体重	性	-16.913	8.757	-.117	-1.931	.055
	学年	-5.440	3.754	-.121	-0.449	.148
	年齢	8.233	2.621	.264	3.141	.002
b2 テレビの視聴時間	性	45.947	8.869	.307	5.181	.000
	学年	1.939	3.802	.042	.510	.610
	年齢	.994	2.654	.031	.375	.708
b4 家族との非対面による会話	性	.724	8.418	.005	.086	.932
	学年	-10.749	3.608	-.252	-2.979	.003
	年齢	2.935	2.519	.099	1.165	.245
d1 外出頻度	性	-33.658	9.122	-.224	-3.690	.000
	学年	-1.916	3.910	-.041	-.490	.625
	年齢	-.497	2.730	-.015	-.182	.856
d2 友人・知人との対面による会話	性	-27.935	9.112	-.187	-3.066	.002
	学年	4.221	3.906	.091	1.081	.281
	年齢	.266	2.727	.008	.098	.922
d5 生活するうえでお金に困ること	性	-.005	8.223	-0.000	-.001	.999
	学年	-10.772	3.525	-.258	-3.056	.002
	年齢	7.690	2.461	.265	3.125	.002
e1 授業時間以外の勉強時間	性	20.236	8.669	.134	2.334	.020
	学年	19.010	3.716	.404	5.116	.000
	年齢	-1.395	2.594	-.043	-.538	.591
e2 旅行をする頻度	性	-34.906	8.928	-.236	-3.910	.000
	学年	-2.734	3.827	-.060	-.714	.476
	年齢	-1.735	2.672	-.055	-.649	.517
e3 SNSの利用時間	性	31.199	9.154	.206	3.408	.001
	学年	.453	3.924	.010	.115	.908
	年齢	-3.923	2.739	-.120	-1.432	.153
e5 友人・知人との非対面による会話	性	30.401	8.635	.208	3.521	.001
	学年	.281	3.701	.006	.076	.940
	年齢	-6.912	2.584	-.220	-2.675	.008
g5 バイトをする時間	性	13.049	9.207	.086	1.417	.158
	学年	-11.155	3.947	-.237	-2.826	.005
	年齢	1.424	2.755	.044	.517	.606
h3 ゲームをする時間	性	-27.296	8.744	-.189	-3.122	.002
	学年	-2.097	3.748	-.047	-.559	.576
	年齢	-3.827	2.617	-.123	-1.463	.145
h5 衛生面に気をつけること	性	25.827	9.302	.170	2.776	.006
	学年	5.857	3.987	.124	1.469	.143
	年齢	-4.095	2.784	-.125	-1.471	.142

性：男性1，女性2として入力

VIF：性1.024，学年1.951，年齢1.978

IV. 考察

1. 性によるコロナ禍における生活様式変化への影響

今回調査したコロナ禍における生活様式変化に対する質問項目において、多くが男女ともに<増加>、もしくは<減少>の同じ方向へ有意に変化しており、異なる方向に有意な変化を示した項目は存在しなかった。全40項目中9項目で、変化に性差が見られたが、「ゲームをする時間」が男性では女性より、<増加>の程度が大きかった以外は、女性の方が<増加>もしくは<減少>の程度が大きかった。つまり、女性の方にコロナ禍の影響を受けやすいという結果であった。

WHOによるパンデミックの影響の初期エビデンスをまとめた報告⁶⁾では、COVID-19の世界的な感染拡大が始まった2020年に、世界では、大うつ病や不安障害が25%以上増加したとされている。大うつ病や不安障害の増加はコロナ禍の影響を強くうけている場所で著明であった。また、男性よりも女性の方がこのような精神疾患を発病しやすく、若い人、特に20~24歳の方がより著明であったという。このように、若い女性はコロナ禍によるストレスを受けやすく、実際に精神的なダメージも大きく影響を受けやすいことが伺われる。

LINEによる新大学生の調査⁷⁾では、女性の方が、自由時間に<友だち・知り合いとおしゃべりをする>ものや<買い物・カラオケなど行く>ものが多く、女性の方が人的交流や外出を好み、コロナ禍での行動制限で苦痛を感じやすいものと思われる。一方、大学の健康診断の受診率は女性の方が高いと報告されている^{8,9)}。女性の方が高い健康意識を持つ、疾病に対する不安や恐怖が大きい、また、大学や政府の指示に従順であるなどということが根底にあり、自らに行動制限をかけてしまい苦痛を感じることも考えられる。

趣味としてのゲームとテレビ鑑賞については、コロナ禍に関係なく男子は女子よりよくゲームをすると報告されている^{10,11)}。コロナ禍により対面による人との交流や外出を控え、自宅にいる時間

が多くなった学生は元来好きだったものに多くの時間を費やすようになり、男性はゲームに、女性はテレビに向かったものと考えられる。

2. 学年と年齢によるコロナ禍での生活様式変化への影響

本調査において、学年や年齢が上がることによって質問紙への回答に変化が認められた。

コロナ禍前と調査時点では、年齢は確実に1歳増加し、9割超えの学生が進級している。そのため、本調査で得られた質問紙への回答の変化は、コロナ禍の影響とコロナ禍に関係しない学年や年齢の影響を含んでいると考えられる。コロナ禍に関連しない学年の影響として、例えば、前年度、受験生であった1年生は、前年度より授業時間以外の勉強時間は減少し、国家試験を控えている6年生は、前年度より勉強時間は増加することが予想される。同様に、大学生になって始めてアルバイトをする学生も多いであろうし、国家試験や卒業による転居が間近であれば、アルバイトを控えることも考えられる。今回、得られた結果がどの程度コロナ禍によるものかを明らかにするには、コロナ禍が終了した段階で同じ調査をする必要がある。

学年の増加による生活の変化が、コロナ禍に起因するものであったとしても、そうでなかったとしても、問題は少ない。アルバイトが減少したが、支出が減少し、結果として、生活でお金に困ることが減少しており、好ましい変化とも言える。

一方、年齢の増加では、体重や生活でお金に困ることが増加し、友人・知人との非対面の交流が減少しており、この変化は問題と言える。年齢の増加は基礎代謝の増加を意味し、より体重の増加を引き起こしやすい可能性がある。

特に男子学生では調査時点にすでに誕生日が来ていた場合における、その学年になるための最小年齢より5歳を越える学生が散見された。同じ学年で年齢が高いということは、大学浪人や大学内で留年を経験したことを意味する。留年生では受講が必要とされる講義数が少なく、コロナ禍によりいっそう生活習慣が乱れたことが考えられる。

また、留年すると同級生の中で少なからず疎外感を感じ、その疎外感はコロナ禍で増強されることとなるであろう。加えて、浪人や留年を経験すると、保護者からの援助が期待しにくくなることも考えられ、コロナ禍に類する環境の変化では、金銭的に困窮しやすくなる可能性がある。以上のような要因のため、体重の増加、金銭的困窮の増加、非対面の人的交流の減少が見られたのではないかと考える。

3. 大学に期待される対応

まず、女子学生はコロナ禍で人的交流や外出の制限に対してストレスを受けやすいと考えられた。そこで、談笑や外出の好きな女子学生のためには、キャンパス内に、ベンチや芝生など屋外に座れる場所を設定し、女子学生が気楽に談笑できる場所とすることも、一つの方法であろう。

以前は、広島大学でも、新入生歓迎のオリエンテーションキャンプやマラソン大会などさまざまな学生が参加できる行事が行なわれていた。そして、これらの行事は、学生同士や教員との親睦をはかるために役立ってきた。しかし、コロナ禍でほとんど全ての行事が3年間の中止を余儀なくされた結果、これらの行事を経験した学生はわずかになってしまった。小中高等学校とは異なり、通常、大学では行事を経験した学生が次の行事を率いる。そのため、途切れた行事を復活することには困難が伴う。これらの行事を復活には、大学の支援が不可欠であろう。まずは、クラブ活動の新入生歓迎会やゼミ旅行などのようなものであれば、個々の教員レベルで簡単に支援できると考える。

また、コロナ感染拡大が維持される状態では、不安やストレス、恐怖、怒り、興奮、不眠など、心やからだに様々な変化が起こりやすい。こうした反応の多くは、コロナ感染の状況が改善することで自然に治癒することが期待されるが、心の不調が固定化する場合もあろう。心の不調を自覚するものは、“こころの相談室”の利用や、医療機関などに相談することが望ましい。大学は、コロナ禍による精神的な影響を受けている学生、特に

女子学生が存在していることを前提に、大学の主催している“こころの相談室”の紹介や、心理臨床セミナー情報の発信などを積極的に行う必要がある。また、定期的な健康診断時に、生活様式や心理状態に関する質問紙を用いて、心に問題を抱えた学生を抽出することが重要であろう。

次に、コロナ禍により、年齢の高い学生には、経済的問題、体重の増加、人的交流の問題が生じ易かった。確かに、本学においても、授業料の免除や納付期限延長や、安価な朝食提供など様々な経済的支援が行われてきた。また、個々の学生の相談に応じるために、チューター制度が導入されている¹²⁾。しかし、必要な学生のもとに的確に支援が届いているかどうかは疑問と言えよう。文部科学省の「COVID-19感染症の影響に対する国や学校などによる支援の利用状況調査」¹³⁾でも、支援を受けていない学生のうち約3/4が「支援の必要がない」と回答しているが、約15%は「支援策が良く解らない等により、必要だったが、申請に至らなかった」と回答している。チューター制度は、個々の学生の問題点を理解し、助言を与えるとともに、有効な支援と学生を結びつけるものでなくてはならない。しかし、高等学校までの担任と異なり、学生との日常的な接触があるわけではなく、学生とチューターとの距離は必ずしも近くないのが現状である。コロナ禍に関わらず、問題を抱えた学生を救済するためには、チューターの担当方法や活動内容などチューター制度の充実に期待したい。

同様に、コロナ禍における不安、抑うつ、ストレス度などの心理的影響や学業への影響も今後の検討課題であろう。

V. おわりに

大学生生活の変化に対する対処として以下が考えられた。

- 女子学生は男子学生より、人的交流や外出の制限をしており、ストレスが大きかったものと思われる。主に女子学生を対象に、人的交流の場と外出の機会を設けることや精神的問題が残った学生への心理的援助が必要であろう。

性、学年、および年齢によるコロナ禍における大学生の生活様式変化の違い

- コロナ禍での影響は学年により異なっていたが、問題となる内容ではなかった。
- 年齢の高い学生では、コロナ禍により金銭的困窮、体重増加等を訴えるものが増加した。援助を必要とする学生と援助を結びつけるために、チューター制度の充実が望まれる。

文 献

- 1) IDWR 2020年第21号<注目すべき感染症> 新型コロナウイルス感染 (COVID-19). <https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2487-idsc/idwr-topic/9669-idwrc-2021.html> (2023.9.26アクセス)
- 2) 学生の就学状況 (中退者・休学者) 等に関する調査 (令和3年度末時点). https://www.mext.go.jp/content/20220603-mxt_kouhou01-000004520_03.pdf (2023.9.26アクセス)
- 3) 若者の半数が「何もしたくなくなる, 無気力」な気持ちに変化3人に1人「関係構築」「対人スキル」への影響を不安視 https://www.jrc.or.jp/press/2022/0106_022802.html (2023.9.26アクセス)
- 4) 立石遥, 笹原妃佐子, 二川浩樹: 新型コロナウイルス流行前後での大学生の考え方や生活の変化について. *Campus Health*, 59: 329-331, 2022.
- 5) 笹原妃佐子, 田地豪, 西村瑠美, 他: コロナ禍における大学生の人的交流や健康に対する考え方. *総合保健科学*, 37: 1-11, 2022.
- 6) Mental health and COVID-19: early evidence of the pandemic's impact: scientific brief. <https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/352189/WHO-2019-nCoV-Sci-Brief-Mental-health-2022.1-eng.pdf?sequence=1&isAllowed=y> (2023.9.26アクセス)
- 7) 新大学生・新社会人ともに自由時間の過ごし方は男性「ゲーム」、女性「SNSを見る/投稿する」が1位 LINE調査. <https://gamebiz.jp/news/346171> (2023.9.26アクセス)
- 8) Sasahara H., Shimazu A, Hiramoto K, et al: Relationship between Smoking History and Annual Medical Checkup Attendance in Undergraduates. *Asian Pacific Journal of Disease Management*, 8: 45-53, 2017.
- 9) 工藤欣邦, 河野香苗, 堤隆, 他: 学生の健康診断に対する理解度と受診率: 受診率向上を目指して. *campus health*, 54: 100-105, 2017.
- 10) 小学生の日常生活時間とその内実. <https://www.gakken.co.jp/kyouikusouken/whitepaper/201009/chapter2/08.html> (2023.9.26アクセス)
- 11) テレビゲーム機に関する調査. <https://lab.testee.co/video-game> (2023.9.26アクセス)
- 12) 杉田 郁代: 大学教育におけるクラス担任制度の実態と課題について 相談支援の頻度が高い教員に着目して. *大学教育実践ジャーナル*, 18: 1-7, 2020.
- 13) 新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査 (結果). https://www.mext.go.jp/content/20210525-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf (2023.7.17アクセス)